



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「ペットロス症候群」という表現の与える印象
Author(s)	木村, 祐哉
Description	要旨の出典：北海道獣医師会雑誌, 2008, 52巻8号, p.107.
Relation	平成20年度日本小動物獣医学会（北海道）. 平成20年9月12日～平成20年9月13日. 虻田郡洞爺湖町（北海道）
Issue Date	2008-09-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35513
Type	conference presentation
File Information	kimura-2.pdf, プレゼンテーション資料



8 「ペットロス症候群」という表現の与える印象

木村祐哉（北大・医・医療システム学）

目的

ペットの死に関わる問題として「ペットロス」という言葉は広く知られるようになったが、その表現方法は一貫しておらず、以下のような定義が混用されている

ペットロス・・・ペットを喪失すること[1]
 ペットロス・・・ペットの喪失とそれに関わる心理的反応[2]
 ペットロス症候群・・・ペット喪失のダメージによる精神的・身体的不調[3, 4]

これらの内、特に「ペットロス症候群」という用語を用いる事には賛否両論ある[5, 6]。本調査はその是非を問うために、この「病名」から受ける印象について網羅的に検討する目的で行われたものである。

対象と方法

期間：2008年6～8月

対象：獣医学生・5年、医学生・6年、文学部生・2年（医師、獣医師、非専門家の代表とみなされる）

方法：自由記述式質問紙（図1）を対象者に配布し、得られた回答をMayring[7]に従って内容分析した。分析においては、文脈を考慮に入れつつ印象に関わるコードを抽出（表1）、KJ法[8]により配置してカテゴリを生成した（図2）。

※本調査は社会調査士倫理要綱に基づいて行われた

——— 学部 ——— 年 （ 男 ・ 女 ）

まず、次の4つの中からお記入してください

「ペットを亡くした経験がある（ ）」
 「ペットを飼っているが、亡くしたことはない（ ）」
 「ペットを飼ったことがない（ ）」

続いて、次の4つの中からお記入してください

「ペットロス」という言葉を知っていますか？（ ）
 「ペットロス」という言葉を知っていますが、よく理解していません（ ）
 「ペットロス」という言葉を知っていますが、よく理解しています（ ）

1. ペットを亡くした経験がない/知覚のない/社会的な関わりが生じていないことについて、あなたはどう感じますか？

2. 「～症候群」という言葉を用いられることについて、あなたはどう感じますか？

ご記入ありがとうございます。

図1. 質問紙

考察

回答から4個のカテゴリと19個のサブカテゴリが得られた。本調査には統計学的解析を採用していないものの、「ペットロス症候群」という用語から受ける印象は様々であることが示された。好意的意見がある一方で、抵抗感や差別が生じる懸念もあることから、安易に「ペットロス症候群」という名称を利用すべきではないと考えられる。また、出現頻度が学部や性別によって偏る意見もありそれぞれの立場が異なれば視点も異なるということを示唆している。既存の診断名を用いずに「ペットロス症候群」という名称を採用することに対しては、特に様々な問題が明らかになった。本調査は質問紙を用いて行われたために、研究の意図が対象者に正確に伝わらず、不適当な回答が混在していることは否定できない。今後、より妥当性・信頼性の高い知見を得るためには、悲嘆経験者に対する面接調査などが必要であろう。

結果

	ペット			
	喪失あり	飼育のみあり	飼育なし	計
医 男	13	1	9	23
女	2	0	5	7
獣医 男	8	2	0	10
女	16	0	1	17
文 男	6	2	3	11
女	20	3	8	31
計	65	8	26	99

表1. 調査対象の概要

テキスト	整形された記録単位	コード
別に、1つの独立した疾患として提案する必要はないと思う。	1つの独立した疾患として提案する必要はない	独立した疾患である必要はない
社会に広まるきっかけになり、 とやあえずは良いのではなか い。	社会に広まるきっかけになって良い	病名が社会認識の向上につながる

表2. 内容分析におけるコーディングの例（左→右）

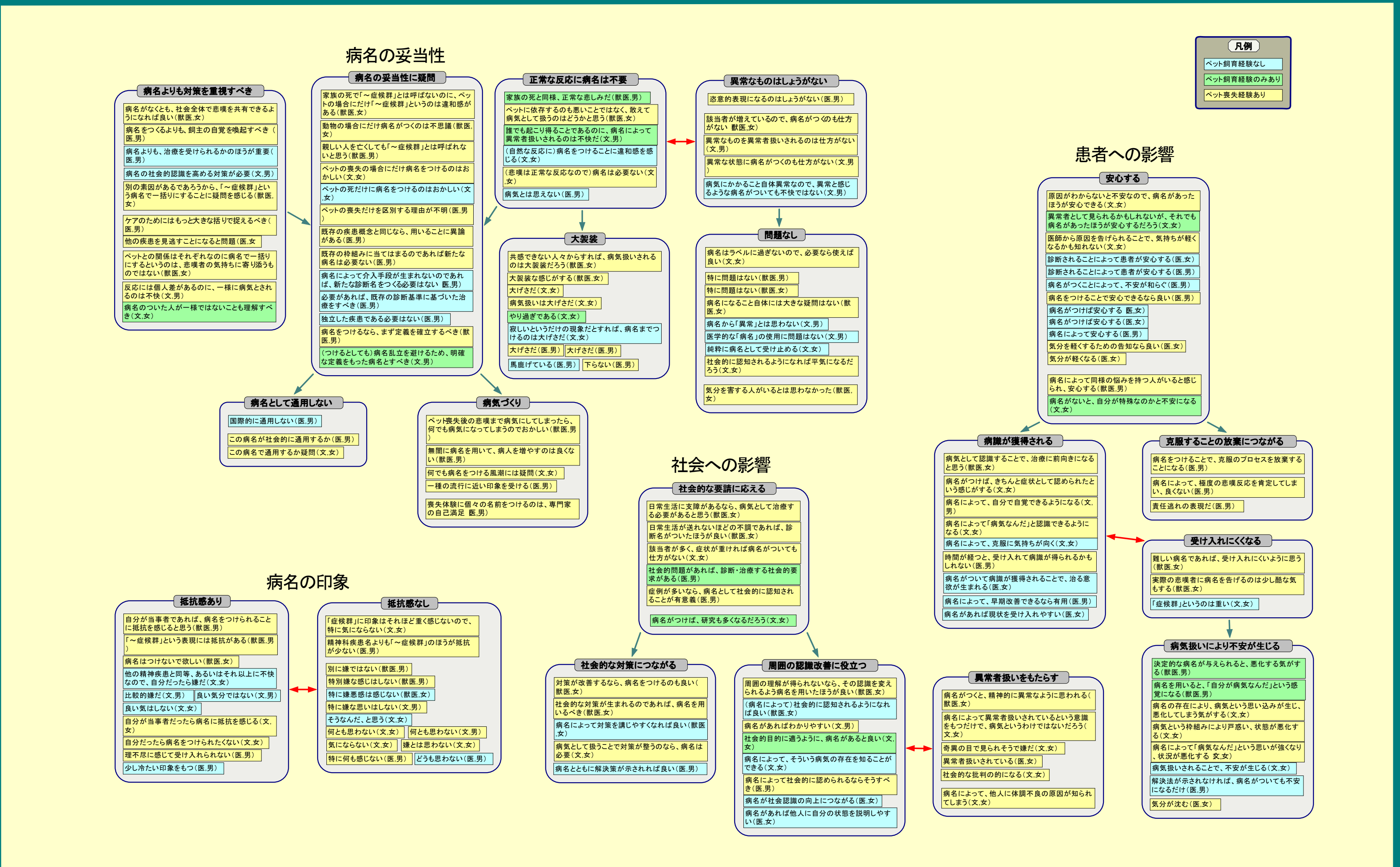


図2. KJ法による回答内容コードの2次元配置

カテゴリ	サブカテゴリ	例文
病名の妥当性 (医:20 獣医:17 文:23)*	病名の妥当性に疑問	ペットの喪失だけを区別する理由が不明(医,男) 病名をつけるなら、まず定義を確立すべき(獣医,男) 既存の枠組みに当てはまるのであれば新たな病名は必要ない(医,男)
	病名よりも対策を重視すべき	病名よりも、治療を受けられるかのほうが重要(医,男) 他の疾患を見逃すことになる問題(医,女) 別の要因があるだろうから、「～症候群」と一括りにできない(獣医,女)
	病名は病気を増やすだけである	喪失体験に個々の名前をつけるのは、専門家の自己満足(医,男) 無闇に病名を用いて、病名を増やすのは良くない(獣医,男)
	病名は大変だ	病気扱いは大げさだ(文,女)
	病名は正常な反応に不要	(悲嘆は正常な反応なので)病名は必要ない(文,女)
	病名が異常な状態につくもの仕方がない	異常なものを異常者扱いされるのは仕方がない(文,男) 恣意的表現になるのはしょうがない(医,男)
病名の印象 (医:5 獣医:6 文:12)*	この病名では通用しない	この病名が社会的に通用するか(医,男) 国際的に通用しない(医,男)
	この病名で問題なし	病名はラベルに過ぎないので、必要なら使えば良い(文,女) 病名から「異常」とは思わない(文,男)
	この病名に抵抗感あり	理不尽に感じて受け入れられない(医,男)
	この病名に抵抗感なし	精神科疾患名よりも「～症候群」のほうが抵抗が少ない(医,男) 特に嫌な思いはしない(文,男)
	病名は社会的な要請に応えるものである	症例が多いなら、病名として社会的に認知されることが有意義(医,男) 病名がつけば、研究も多くなるだろう(文,女)
	病名は社会的な対策をもたらす	病気として扱うことで対策が整うのなら、病名は必要(文,女) 病名があれば他人に自分の状態を説明しやすい(医,女) 社会的目的に合うように、病名があると良い(文,女)
社会への影響 (医:7 獣医:8 文:10)*	病名は周囲の認識改善に役立つ	病名によって、他人に体調不良の原因が知られてしまう(文,女) 病名がつくと、精神的に異常なように思われる(獣医,女)
	病名が安心をもたらす	病名によって同様の悩みを持つ人がいると感じられ、安心する(獣医,男) 病名がつくことによって、不安が和らぐ(医,男)
	病名が病識を獲得させる	病名があれば現状を受け入れやすい(医,女) 病名がついて病識が獲得されることで、治る意欲が生まれる(医,女)
	病名が克服することの放棄につながる	病名によって、極度の悲嘆反応を肯定してしまい、良くない(医,男) 病名をつけることで、克服のプロセスを放棄することになる(医,男)
	病名が不安をもたらす	病気扱いされることで、不安が生じる(文,女) 病気という思い込みが生じ、悪化してしまう気がする(文,女)
	病名が受け入れにくくなる	実際の悲嘆者に病名を告げるのは少し酷な気がする(獣医,女)

表3. カテゴリのまとめと回答記述例

*各学部のコードの出現数

●引用文献

- 朝比奈千絵：青少年期における飼育動物の喪失(ペットロス)体験に関する探索的研究. 教育臨床心理学研究 5：181-194, 2002
- 横山章久：うつ病のいま;治す力と支える力 うつ病とペット・ロス. 臨床看護 31(1)：45-48, 2005
- 日本医師会：健康ぶらさ：「別離」への心の予行演習—ペットロス症候群—. 日医ニュース 201：2006
- 小杉正太郎：ペットロスに関する心理学的検討. Animal Nursing 7(2)：8-13, 2002
- 宇都宮直子：ペットと日本人 文春新書075. 文藝春秋. 1999
- 鷲巣月美：ペットの死、その時あなたは. 三省堂. 1998
- ウヴェ・フリック：質的研究入門—<人間の科学>のための方法論. 春秋社. 2002
- 伊藤哲司ら：動きながら識る、関わりながら考える—心理学における質的研究の実践. ナカニシヤ出版. 2005